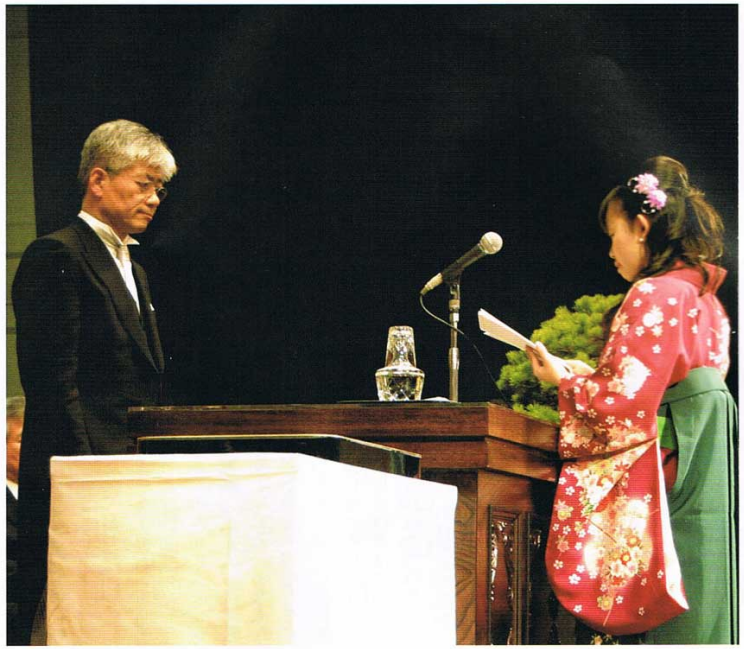


二松學舍大學
父母会報

平成５年5月10日創刊
平成22年3月31日発行
（第68号）
二松学舎大学父母会
（本　部）東京都千代田区三番町６番地16
（事務局）千葉県柏市大井2590
〒277-8585 TEL 04(7191)8756
二松学舎大学柏教学課
題字は
故 観山貞廣常吉先生書

卒業を祝す

父母会長　山岡英夫

今まさに春爛漫の時、卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんにとっての二松学舎大学における日々は、大変有意義なものであったことと思います。二松学舎大学での教えは、皆さんのこれからの人生において、必ずいつでも皆さんを支えてくれます。

今、社会は困難な状況にあります。二松学舎の創立者（学祖）である三島中洲も学ばれた徳川時代末期の儒者、佐藤一斎の言葉に「一灯を提げて暗夜を行く。暗夜憂うることなかれ。ただ一灯を頼め。」というのがあります。この一灯とは皆さん一人ひとりの心のことです。この心を皆さんは二松学舎大学において学び育ててきたのです。困難の中からこそ本当の活力が生まれてきます。二松学舎大学での教えを心として自分を信じてがんばってください。大きな災害に遭った街は、そうでなかった街に比べて十年後二十年後に立派になっている例が多いとのことです。困難は、活力の元でもあり明日への重要なステップです。また、「少にして学べば、即ち壮にしてなす事あり。壮にして学べば、即ち老いて衰えず。老いて学べば、即ち死して朽ちず。」という言葉があります。社会に出てからは、益々勉強が重要です。そして、何をするにも健康であることが大切です。節制を心がけ健康に十分気をつけて、元気に活躍していってくれることを祈っています。

卒業生のご家族の皆様、おめでとうございます。二松学舎大学父母会に対するこれまでの多大なご支援ご理解に、厚く御礼申し上げます。有難うございました。なお、本学には、「二松学舎大学後援会」があります。後援会にご入会頂き、引き続き二松学舎大学を応援していただけますと幸いです。

本学教職員の皆様には、日頃より大変お世話になり、本当にありがとうございます。ここに改めて深謝いたします。

「贈る言葉」仕事で自分を磨こう

学長　渡辺和則

卒業生の皆さん、おめでとうございます。ご父母の皆様におかれましては、物心両面において親としての義務と責任を果たされた安堵と感激の気持ち一入のものがおありかと存じます。誠におめでとうございます。

卒業生の皆さんのなかには、企業に勤める人、教職に就く人、大学院に進学する人など、いろいろな人がいるでしょう。卒業後も職探しをするという人もいるでしょう。どの人もこれから本業に就くわけです。アルバイトで経験した仕事はマニュアル化された仕事で、決められたとおりに上手くやっていればそれでよかったのですが、これからは違います。どんな仕事にも、表からは見えない裏の仕事がほとんどです。皆さんはこれからその仕事に携わることになります。それは地味できつい内容のものかもしれません。最初から新人に派手で楽しい仕事が回ってくるほど世の中は甘くはありません。それが本業に就くということなのです。

どんな道に進むにしても、まずは与えられた環境・状況の中で、物事に積極的に取り組むことです。そのことによって今まで知らなかったいろいろなことを学べます。やらされている仕事からは何も学べません。仕事は生活の糧を得るだけではなく、自分を磨く手段です。そのことを肝に銘じて取り組んでいってください。そうすれば必ず出口は見つかります。

最後に、卒業生の皆さん、向上心と勇気を忘れずに、健康で楽しい生活を送ってください。そして周りの人々に優しい人であってください。今後の健闘をお祈りします。

卒業生に贈る

理事長　大山徳高

卒業生の皆さん、おめでとうございます。社会は、皆さんのように高い志を抱き、活力溢れる若者を待望しています。私たち二松学舎大学の関係者は、皆さんのような人材を社会へ送り出すことを誇りにしております。これからは健康に気を配り、ご家族の皆さんの温かいご支援に感謝しつつ、学問を授けていただいた先生がたの思いを胸に、高等教育を受けた人間として誇りと自信をもって、社会的責務を果たしていただきたいと念願しております。

ご存知のとおり、現在日本の社会は、多様な困難に直面し、解決策を得られず閉塞感に覆われています。将来に光明を見出せず、社会全体が必要以上に内向的になっているように思います。しかし、こうした状況を私たちの歴史は幾度となく経験しています。人類の歴史は、苦難の多い歴史です。私たちの先輩がそれらを乗り越え、今日があります。未だ多くの課題を抱えながらも、人々はそれぞれの立場で努力を重ねています。

歴史を振り返ってわかることですが、社会が遭遇する困難の大きい時ほど、活躍をするのが若者たちでした。障害に立ち向かい、社会を牽引するには、大きなエネルギーを必要とするからだと思います。若者が大きな夢や理想にその命を燃焼させることによって未来社会に希望の火を灯すことができるのです。

繰り返しになりますが、卒業生の皆さんには、将来に夢や希望を掲げ、持てる力を十二分に発揮していただきたいと願っております。ご健康とご多幸を祈ります。

結びになりましたが、ご家族の皆様には厳しい状況の中、卒業生の大学生活を支えていただき感謝と敬意を表するとともに、本学へお寄せいただきましたご理解とご協力に対し厚く御礼申し上げます。

卒業すること、文学部の出身であること

文学部長　江藤茂博

御卒業おめでとうございます。君たちは、二松学舎大学文学部の卒業生として、おおいに社会で活躍されていくことでしょう。そこがどんな場所であれ、君たちが文学部で学んだ知見、そして学生時代に悩み考え抜いた物事は、きっと君たちを一味違う大人にと、その成長を促すはずです。また、君たちは、さまざまな可能性を持って、いま一歩を踏みだそうとされています。そのまま一所懸命に歩きだすもの、その一歩を躊躇するもの、一歩踏みだしながらも不安を感じるもの、そんないろいろな一歩があることと思います。しかし、そのどの一歩にも大きな可能性が秘められていることでしょう。恐れることなく、学舎のある九段の地から、一歩を踏みだしてください。学問、特に文学という芸術に関する学問は仮説の積み重ねであって、いわゆる正解というものがないように、人生にもまた正解はありません。あるとすれば、そのどれもが正しいということでしょう。君たちもまた、その一歩を正しいと信じ、そして必要ならばその一歩をやり直すこともまた正しいと信じ、君たち自身の人生をしっかりと歩んで欲しいと思います。

最後に、文学部出身の君たちには、これから、書物の面白さだけではなく、現実社会の面白さも、しっかりと「解読」し、楽しんでもらいたいと思います。そして、いつの日か、君たちがこれから作る物語／社会を、私は読んでみたいと思っています。

今年度ゼミ卒業生に贈る

国際政治経済学部長　鈴木朝生

卒業生の皆さん御卒業おめでとうございます。今年度は私のゼミからは三名の学生が卒業します。個人的回想になり恐縮ですが、この四年ゼミはここ数年の中でもかなり印象の深いゼミになりました。それは、とくに大学に六年間在籍したある学生の存在が大きかったと思います。彼は長野の県立高校からセンター入試利用で本学部に進み、本来学力は相当上位の学生のはずが、個人的理由や単位の管理の甘さもあって結局ゼミに四年間在籍しました。彼を中心に、同じ同好会の後輩で埼玉県から通う男子学生と、そして新潟の県立高校からこれもセンター入試利用で入学した女子学生の三名からなるゼミで、少人数の学部ゼミの中でもとくに小さいゼミですが、私はこれで適正規模と考えています。「よく学びよく遊べ」と言いますが、学びはもちろんよく遊びもしたという意味では、ゼミ以外の日にもよく待ち合わせをしては夜遅くまで飲み歩いたことは、これまでのゼミにはなかった経験で、よほど学生との波長が合わなければこのようなことはなかったでしょう。

教育とは人から「教わること」であると同時にまた「自己教育」でもある以上、教わったことの中で何を活かせるのかは結局のところ自分自身に掛かっています。これは、大学院生時代以来の経験の中で得た痛切な実感ですが、多忙を極める大学行政の傍ら、ゼミとは勉学を中心にした人間トータルの交流もまた、その重要な要素であるという今更のような事実の重要さをゼミ生から教わったという意味で、彼らに深く感謝をしたいと思います。

国文学

四年生のゼミナールを担当された先生方から餞の言葉を戴きました

われわれは結局何を目ざすべきか。
世の中を知り、これを軽蔑しないことだ。
（ゲーテ「温順なクセーニエン」）

滝田浩

Way to go!

白井雅彦

私のゼミに卒業はない。
学ぶ場所が変わるだけだ。
これからも、
多くの人たちに、
いろいろな所で、
そして、
さまざまな出来事から、
学び続けなさい。

江藤茂博

中国文学・比較文学・文化

四年生のゼミナールを担当された先生方から餞の言葉を戴きました

平成21年度

卒業式

平成二十二年三月二十五日(木)、九段会館大ホールにおいて、平成二十一年度二松学舎大学学位記授与式が挙行されました。

九段会館の入り口には開場前から着飾った卒業生達が詰め掛け、晴れやかな笑顔でお互いの卒業を祝福し合い喜びの声をかけあっていました。

午前十時、演壇右手には来賓・学校法人二松学舎役員、左手に大学の教員が着席。志村教学課長(司会)の開式宣言で始まりました。

一同による国歌斉唱、佐藤一樹学務局長の学事報告に続いて学士（文学・国際政治経済学）の学位記・卒業証書（文学部四四六名・国際政治経済学部二二九名）が授与されました。

また、成績最優秀者に中洲賞（両学部各学科一名）の授与、教育職員免許状が伝達されました。

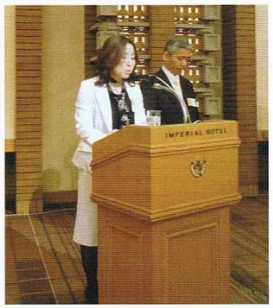
その後、渡辺和則学長の告辞、大山徳高理事長・神津賢一郎松苓会長の祝辞が続き、祝電披露の後、在学生代表の送辞、卒業生代表の答辞、校歌斉唱と滞りなく進み、終始厳粛な雰囲気の内に授与式を終了しました。

今日を境に社会人として新たな一歩を踏み出す卒業生に拍手を贈りたいと思います。

祝卒業

平成21年度 卒業パーティー IN 帝国ホテル 孔雀東の間

平成二十二年三月二十五日（木）、午後二時より帝国ホテル「孔雀東の間」において、平成二十一年度卒業パーティーが開催されました。文学部・国際政治経済学部の卒業生と大学の教職員・法人役員が加わり、広い会場のあちらこちらに所狭しと華やかな輪ができ、共に祝い合い、語り合い、話に花が咲き、楽しい中にも別れを惜しむ一時を過ごしました。



卒業にあたり、新しい人生への、希望に満ちた門出に胸膨らませている学生三名に、四年間学んだ学生生活を振り返り、現在の心境及び感想等を語っていただきました。

『二松学舎を誇りに』

文学部国文学科
毛塚優甫

私が二松学舎という名を耳にしたのは、四年前の丁度冬が終わる頃でした。私は所謂「できる」生徒ではなく、国語だけが取り柄の高校生でした。秋からの大学受験に失敗した私は、三月以降も文学部の受験を続け、その中で二松学舎大学を知りました。そして合格することができましたが、その喜びの中に、それまでの受験に失敗したという挫折の思いがなかったわけではありません。しかし、後悔していても仕方が無いと、心機一転して大学の中で上を目指そうと決意を新たに門をくぐりました。

二松学舎で学んだことで、最も記憶に残るものはやはりテクスト論との出会いです。それまでの私は国語と文学はイコールで結ばれるものであり、また分析とはある正しい解釈を求めるものだと思っていました。大学の講義で触れたテクスト論は、私にとって衝撃的なものでした。今までやってきたこととは全く違う新しい「読み」の形は発見の連続で、どんどん惹かれていきました。大学の先生方の講義は、最初の内こそ用語が理解できなかったりして難解に感じたこともありましたが、逆にそのような講義の内容がだんだん分かるようになっていくのはとても楽しいことでした。自身の知識が着実に増えているという実感は、二松学舎の先生方の講義であったからこそだと思っています。

日本近現代文学ゼミでは三年次では五井信先生、四年次では生方智子先生にご指導して頂きました。私は一年次に五井先生の講義を受けて、文学の魅力を知ることができました。四年次では先生が一年間海外へ行くことになってしまったのでゼミとして学ぶことができたのは三年次の時だけでしたが、それでも多くのものを得ることができました。今の私の考え方の原点は、間違いなくこの一年間に培われたものです。毎週の課題でそれなりに忙しい一年間でしたが、それ故に最も充実し成長を実感できた年でした。また四年次でゼミを担当して頂いた生方先生には、様々なことを懇切丁寧に教えていただきました。分からない部分や詰まった場面などに当たったとき、生方先生は大変明快で理解しやすいように、かつとても丁寧に教えてくれました。卒業論文の作成時には相談に乗ってもらったり助言を頂いたりと、長い期間大変お世話になりました。どちらの先生にも数え切れないほどの恩を受けました。一年間ずつのゼミとなってしまったことは、それぞれ二年間学んでみたかったという残念な思いもありますが、それよりも二人の素晴らしい先生方にご教授頂けたという喜びの方が大きく感じています。また素晴らしいゼミの仲間たちのおかげで、とても充実した二年間を過ごすことができました。皆の様々な面に影響を受けたことで、自分は成長することができたと思っています。

また、私の大学生活を語る上で避けて通れないことは部活動やサークル活動などの課外活動です。私は剣道部に四年間所属していました。仲間たちや先輩方、後輩たちに囲まれ、様々な経験を積みました。大学の講義で自分の学術面での成長が感じられたとすれば、剣道部の方では身体面は勿論、人間的、社会的な成長をすることができたと思っています。サークル活動も含め、これらの活動では多くの人たちと出会い、素晴らしい友人と巡り会うことができました。二松学舎に来たからこそのこの出会いは、大学で得たものの中でも特に代えがたい大切なものだと思っています。

大学受験で失敗したという一年次のときの思いはもうありません。私が大きく成長することができたのは、二松学舎大学で学んだからこそだと確信しているからです。私は四月から立教大学の大学院で更に文学研究の道を進むことになります。私は、私を大きくしてくれた二松学舎大学を誇りにして進むつもりです。

『感謝』

文学部中国文学科
小野寺晴香

「すごく幸せな時間だった。」

私の大学生活四年間を言葉で表すなら、これに尽きます。四年間という期間は、高校の三年間よりも長いのに、ずっと短く感じました。それは、自分の学びたいことだけをとことん学べるという、贅沢な環境で過ごせたからだと思います。四年前に地方から出てきた時も、知らない街で一人暮らしをするという不安より、多くのことを学べる生活に期待していました。

私が二松学舎大学に入学したいと思ったのは、高校で学んでいた韓国語を更に極めたかったからです。その当時は、韓流ブームもそれほどではなかったため、韓国という国が近くて遠い国だったこと、日本が韓国について詳しく知らなかったことから、言葉だけでなく、文化や歴史についてももっと学びたいと思いました。

大学では、ネイティブの先生三人と韓国に精通された日本人の先生二人に、とてもお世話になりました。先生方の授業はどれも温かくて、愛があります。そのためか、一人一人が生き生きと学び、発言できる、有意義な時間を過ごすことが出来ました。また、「科目等履修生」の主婦の方々とも一緒に勉強するなど、魅力的な授業が多かったです。

「自分は高校から学んでいるのだから、大学から始めた仲間たちより上手くできなくてはならない」と、必死だったこともありましたが、大学の授業を受けて、高校の時以上に韓国語を好きになれました。

二年生の春休みには、念願だった韓国留学が出来ました。語学学校に一ヶ月通ったのですが、授業はもちろん韓国語で行われ、日本人が多かったため、みんなライバルであるような緊張感のある授業でした。直接、現地の人や習慣に触れることができ、韓国の良いところにたくさん気づくことが出来ました。特に一番印象に残っているのは、韓国の電車の中では、年配の方が立っていなかったことです。また、自分の目の前に立っている人が重い荷物を持っていたら、知らない人のでも持ってあげていました。相手を思う気持ちを、しっかりと行動に表している。当たり前のことかも知れませんが、消極的な日本人にはなかなか見ない行動だったので、感銘を受け、私も席を譲るなど行動を起こすようになりました。

三年生から入った韓国ゼミでは、ドラマの会話を訳し、字幕との違いを学ぶことや、日本との文化の違いを見つけていくことが毎週楽しみでした。ゼミ生のみんなで韓国研修に行くこともでき、世界遺産を見たり、楽しく飲んだり食べたり出来て、とても満足しています。

私が韓国語の授業を通して学んだことは、言葉や韓国についてだけでなく、自国である日本を知ることや、考えることでした。また教科書の内容を超えて、生きていくうえで何が大切なのか、どう志を持ち、どう世の中に貢献していけば良いのかなど教えてくださった先生方には、いくら感謝してもしきれません。

先生方のお言葉や、年齢、国を超えた人々と共に学ぶことの出来た日々は私の宝物です。そして、四年間つらい時、楽しい時を一緒に過ごしてくれた友人、困難を一緒に乗り越えてくれたかけがえのない人々に出会えて、本当に幸せです。一人では決して頑張れませんでした。

最後に、私にこんな素敵な出会いや経験をさせてくれた両親に、感謝の気持ちでいっぱいです。両親を安心させられるような人間に成長していくことが、今後の私の目標です。両親と先生方の「愛」をたくさん受けたので、社会人として責任やプレッシャーに押しつぶされていくことがあっても、負けずに乗り越えていきます。歴史と伝統のある二松学舎大学で学んだこと全てを無駄にしないように、歩んで行きたいです。

『視野が広がった四年間』

国際政治経済学部
尾組　薫

私が二松学舎大学に入学した理由は二つあります。一つ目は、高校での日本史や政治経済の授業を通じて、社会の仕組みや社会で起こっていることに興味をもち、それらを深く学んでみたいと思ったからです。二つ目は、韓国のドラマや映画が好きで、韓国という国に興味があったので、韓国を含めた東アジアに関することを勉強したかったからです。

卒業を目前に控えた今、四年間の大学生活を振り返ると、高校時代と比べて私の視野は非常に広がったと思います。

一、二年生のときは必修科目が多く、幅広い分野の授業を受けました。大学の授業は、政治や経済などを高校より詳しく勉強するため、おもしろいと感じる授業もあれば、難しく感じるものもありました。

その中でも以前から勉強したかった韓国語の授業は、韓国に興味があったということもあり、とても楽しみながら学ぶことができました。何よりも嬉しかったことは、それまでまったくわからなかったハングル文字がわかるようになったことで、韓国という国を一気に身近に感じるようになりました。そして、大学入学前からの希望であった観光旅行や一週間の語学留学などで、実際韓国に訪れて学ぶという貴重な体験をすることができました。

観光旅行では、楽しみながら韓国の文化に触れることができ、語学留学では、一週間という短い期間でしたが、ホームステイをしながら語学学校に通い、旅行では経験できないようなありのままの生活を体験できました。旅行で訪れた中では、南北朝鮮の分断の様子を直接見ることができた板門店が特に印象に残っています。語学留学では、ホストファミリーのおじいさんが私を様々なところへ連れて行ってくださったのが楽しかったのと同時に、おじいさんが流暢に日本語を話されているのを見て、かつて日本が朝鮮を植民地支配していたという過去を思い出しました。また、言語や習慣などで、日本と韓国には多くの共通点があることや、その反面、日本では正しいとされていることが韓国ではよくないとされていることなど、韓国を訪れる度に様々な発見がありました。そのため、韓国についてもっと知りたいという気持ちが高まったと同時に、韓国語以外の授業でもレポートや発表の際に、韓国で見たことや経験したことを活かしてまとめることができました。

それまで特に外国に興味をもったことはありませんでしたが、韓国に興味をもったことで、世界のことにも目を向けられるようになったと思います。そして、外国から日本はどのような国に見えるのかということも考えるようになりました。

また、私にとって大学生活の始まりは、自分がそれまで暮らしていた故郷や親から離れて、新たな生活を始めることを意味していました。大学生活への期待や不安と共に、慣れない場所で暮らしていけるのかという心配もありました。最初は心配していたほど大変なこと、寂しいと感じることはありませんでしたが、徐々に多くのことを自分でやらなければならないことの大変さや、故郷や親と離れて暮らすことの寂しさを感じるようになりました。そして、それまで経済面や生活面において、自分がどれだけ恵まれた生活をしていたのか実感することができました。

このように、私の視野は大学に入学する前と比べると、勉強面でも生活面でも格段に広がったと思います。それもすべて、私の大学生活を支えて下さった先生方や、家族のお陰だと感じています。本当にありがとうございました。大学を卒業してからも、大学生活で学んだことを活かしつつ、新しいことに挑戦し、自分の視野をもっと広げていきたいと思います。

私の学生時代

副学長
吉崎一衛

入学した当時の二松学舎大学は、現在の校舎からは想像もできないほどひどい木造の建物であった。漱石は「講堂などの汚さと来たら今の人には迚も想像出来ない程だった。真黒になって腸の出た畳が敷いて」あったと書いているが、昭和三十八年の校舎も、廊下に穴が空いたとても整っていたとは言い難いものだった。校舎はそうであっても、大学は活気に満ち溢れていた。中国文学、国文学の錚々たる教授陣。そして、学ぶことの喜びや、感動を分かち合える仲間がいた。いろいろな行事に参加し、多くのことを大学とそこに集う人々から学んだ。

この行事の一つに「万葉旅行」があった。京都御所や修学院離宮をはじめとする京都・奈良の文学に関わる名勝古蹟の踏査旅行である。当時、写真家、土門拳の「古寺巡礼」の出版がはじまり、これにも刺激を受けていた私は、早速カメラをもって、この旅行に参加した。

重ねたキャリアは、ある意味いぶし銀のような重厚さを醸しだしており、その後の宴会の席での会話もおおいに弾んだものとなった。

私たちの過ごした学生時代は、激動の時代といってよい。さまざまな政治的問題をめぐる学生運動が活発であり、多くの学生は、多かれ少なかれそれらと関わりをもつことになった。私もその例外ではなく、クラブの友人たちと大いに議論し、またその前提となる知識の獲得のため、競い合って努力したことを覚えている。

旅館は、多くの文学者や研究者が利用した日吉館。ここも建物は立派とはいい難い旅館であった。後にNHKのドラマ「あおによし」で有名になったが、卒業後、利用する毎に、すきま風に夜中起こされては、入学時の校舎を思い出させられた。

さて、この旅行から、実際に自分の目で見ること、足で歩くこと、文学を書籍の中だけで研究するだけではなく、自分の五感を通して体感することも必要であることを学んだ。これが、漢詩を紀行文学としてとらえ、実際に中国の詩人たちを追って中国各地を歩き回っている現在の私の原点となっている。

四月、二松學舎大学は、三号館がオープンする。その教室は最新の設備を整え、私の入学当時の校舎の面影はすっかり消えている。しかし、物事へ強い好奇心と真理の探究ができる場は変わらずある。卒業生として、古き良き時代を知る者として、その良さを伝えていきたいと願っている。

附属図書館長
国際政治経済学部教授
長谷川日出世

昨年の九月、静岡県の熱海で久々に大学時代に所属していたクラブ（早稲田大学自由主義研究会）の集まりがあった。新聞記者、商社マン、放送記者、公務員、実業家と職種は多彩だが、皆すでに六十歳台前半、第一線は退いており、向学心、理念、理想に燃えていたあの学生時代の輝きは期待すべくもない。ただそれぞれが大学卒業後の社会生活において人の中には、授業にほとんど出席していないにも関わらず、ほぼ全優（全てA）で卒業していった者が数多くいた。

学生時代、お互いに切磋琢磨した友人は、一生涯付き合える友人となるであろう。熱海での一泊の後、友人たちが提案したのは学生時代のクラブの機関誌「リベラリスト」の復刊である。還暦を過ぎて、今なお知的探求に情熱をもやす友人たちに、幸多からんことを祈るのみである。

キャリアセンターだより⑱
キャリアセンターについて

キャリアセンターでは、「父母会報」に、「キャリアセンターだより」として年間四回掲載しております。内容は、その時々に適した事柄について、父母の皆様に情報を提供しておりますが、キャリアセンターの業務が今ひとつ分からないとの声をうかがいましたので、今回は、キャリアセンターが実施している就職支援などについてご説明いたします。

具体的な支援で、主なものは三つです。

一つ目は、民間企業就職希望者に対する支援。二つ目は教員になりたい学生への支援。三つ目は、公務員になりたい学生への支援です。

教員希望者への支援は、二年生になる直前の春休みから、四年生になる直前の春休みまでの二年間にわたって有料講座の「教員採用試験合格講座」を毎週一回合計一九九コマ開講しています。本学では、毎年教員採用試験受験者は五十名程ですが、合格するのは、この講座の受講生がほとんどなのが現状です。

なお、教員希望者への支援については、平成二十二年度からは新設される「教職支援センター」が行うことになります。

次に公務員希望者に対する支援については、三年生になる直前の春休みから、四年生の春セメスター期間までの一年と半年にわたり、有料講座の「公務員合格講座」を毎週一回合計一二四コマ開講しています。

企業への就職希望者に対する支援として、三年生の四月から一年間開講する「就職特別講座」があります。

この講座は、単位制の正課授業ではありません。企業に内定するためのノウハウを学ぶ実践的な内容で、キャリアセンタースタッフが中心になって毎週一回（秋セメスター期間は二回）実施するものです。

特に力を入れているのは、面接と筆記試験対策です。

面接対策としては、二十名の企業の採用担当者と十名の社長による模擬面接を実施して鍛えています。また、筆記試験対策では、特に数学対策に力を入れており、本学の附属高等学校の数学教諭による特訓や外部講師によるSPI特訓講座も実施しています。授業の関係で参加できない学生には、夏休みに「まとめ講座」としても実施しています。

それでも受講者は、就職希望者の五十％にすぎません。就職は各人の頑張りにかかっているのです。厳しい就職環境を考えると、もっと受講してほしいものです。

講座以外では、三年生全員に対して「個人面接」を実施しています。面接を通じて各人の進路希望を把握し、個々人にあった指導と支援ができる体制を整えています。

三年生の十二月になると、学生はそろそろ企業の説明会に参加し始めます。年明けの二月になると、毎日のように会社説明会参加・エントリーシートや履歴書の提出・筆記試験受験と多忙になります。

中でも、履歴書やエントリーシートがうまく書けない学生のために、我々スタッフは添削をいたします。面接に自信がない学生のために、模擬面接を行います。履歴書の添削にしても模擬面接についても、本人が納得いくまで、そしてスタッフがOKを出すまで、何度でも行います。

自分をうまく表現できずに思わず泣き出す学生もいます。スタッフも一日に何人もの学生を相手に、心身ともに疲れることもあります。しかし、学生の希望が叶うように、学生と二人三脚で頑張っています。

四年生になり、なかなか内定が取れないと気落ちしてキャリアセンターを訪れる学生も出てきます。その時は、十分な時間を取って今までの就職活動についてじっくりと確認し、本人と今後について対策を練ります。また、キャリアセンターが本人の希望にあった企業を紹介するなどして支援します。

平成二十一年度は、大変に厳しい就職環境でしたので、四年生の五月にも学内合同企業説明会を実施いたしました。その後は、十二月まで毎月一回ミニ合同企業説明会を実施して支援を行いました。平成二十二年度もきめ細かい支援を行います。

本学のキャリアセンターは、「学生のために」を合言葉に支援を行ってまいります。

なお、一・二年次生には、正課科目である「キャリア教育①②③」を開講しています。卒業後の進路は当然のことですが、大学の授業全てが関係しているのです。

キャリアセンターとの意見交換会を実施しました

日時：平成21年11月28日（土）
場所：九段校舎　11階会議室

出席者

父母会会長
山岡英夫氏
父母会副会長
篠塚義光氏
父母会委員
桐原利之氏
吉田宏之氏

学務局長
（父母会副会長）
佐藤一樹教授
キャリアセンター長
金子茂教授
キャリアセンター事務部長
神河秀春氏

父母会員の皆様にとって関心の高い就職活動について、父母会として何かサポートできればと考え、キャリアセンターとの意見交換会を実施しました。

金子キャリアセンター長の挨拶に続き、神河キャリアセンター事務部長から、資料に基づいて、キャリアセンターの取り組みについての説明がありました。これを受けて、まず、今年度父母会としてキャリアセンターへ助成している事業について話し合われました。平成二十一年度は、「基礎学力検査」、「数学特訓講座」、「日本語検定」、「一般常識模擬試験」の四つの事業に関してキャリアセンターに助成をしていますが、父母会役員から、各々の講座について、内容にまで踏み込んだ率直な意見が出されました。また、教員を目指す学生の実情や実際にキャリアセンターを利用して企業にアプローチする学生の割合等も話題になりました。これからは、父母も積極的にキャリアセンターを活用していくべきであり、父母対象の就職ガイダンスを実施してはどうか等の案も出されました。

キャリアセンターから今年の就職状況が「非常に厳しい」との説明を受け、父母会としても何らかの形でバックアップをしたいとの想いから、当面できることとして、父母会報の誌面を活用し、就職活動に関する現実的な情報を可能な限り発信していこうという結論になりました。

父母会では、今回の意見交換会を良い機会として、今後一層キャリアセンターとの関わりを深め、学生の就職活動を支援していきたいと考えております。

学生相談室だより68

カウンセラー・教授　改田　明子

新緑がまぶしい季節となりました。キャンパスにも、期待と不安の入り混じった新入生の姿が輝いています。

本学では、よりよい学生生活のために学生相談室を運営しています。ここでは、相談の様子を紹介しながら、利用についてご案内したいと思います。

さて、新入生の大学生活は、高校とは大きく変わります。履修科目を選び、自分なりの時間割を作り、授業の座席もそのつど自由にしてよいなど。自分で決めたり選んだりすることが多くなります。授業やアルバイトやサークルなどを通じて、交友関係も幅が広がることと思います。

相談室では、このような生活の変化の中で、学生生活を軌道に乗せるためのお手伝いもしています。たとえば、履修の仕方や授業のしくみがよくわからないという相談。また、授業とアルバイトの両立が不安との相談や、たまたま入学式に話した相手と行動をともにしているけど、気が合わずにストレスだといった交友関係の相談。相談内容はさまざまです。相談室では、お話を聴きながら、ご本人が気持ちを落ち着けて、持ち前の力を発揮できるようにお手伝いするとともに、必要に応じて関係者への働きかけもしています。

また、もちろん、新生活の開始にあたってご本人のことで気になることがある場合にも、相談に応じています。ご自身で相談希望の場合は直接来室するのが簡単ですが、親御さんからのご相談は、まずお電話くだされば、時間をとってお待ちします。

【直通電話番号】
九段　〇三（三二六五）三七六〇
柏　〇四（七一九一）八七九六
お気軽にどうぞ。

平成22年度二松学舎大学日程表

年	月	日		月	日	日　程
平成22年	4	1	～	4	10	ガイダンス
	4	3				入学式
	4	9				新入生歓迎交流会
	4	12				春セメスター授業開始
	4	20				前期授業料納入期限
	4	30	～	5	1	全学休講
	5	中旬				定期学生大会
	5	29				父母会定期総会
	6	19	～	6	20	学園祭（柏）
	6	26	～	6	27	学園祭（柏）
	7	10				授業終了
	7	12	～	7	17	補講期間（6日間）
	7	20	～	8	2	試験期間
	8	3	～	9	20	夏期休業期間
	8	12				追試験
	9	1	～	9	15	夏セッション（15日間）
	9	21				秋セメスター授業開始
	9	30				春セメスター卒業式

年	月	日		月	日	日　程
平成22年	10	10				創立記念日
	10	20				後期授業料納入期限
	11	2	～	11	5	学園祭（九段）
	12	初旬				防災避難訓練
	12/15・18・20・21・22・24					補講期間（6日間）
	12	17				年内授業終了
	12	25	～	1	7	冬期休業期間
平成23年	1	8				授業再開
	1	17				授業終了
	1	18	～	1	31	試験期間
	2	3	～	2	4	卒業研究面接試問（文学部）
	2	8	～	2	9	修士論文面接試問
	2	10				追試験
	3	初旬				卒業・修了者発表
	3	中旬				ゼミ登録許可者発表（文学部） 進級者発表（国際政経）
	3	24				大学院修了式
	3	25				学部卒業式

学生顕彰報告

書道（個人）

上田真愛さん
九十四回書教展　学生の部
文部科学大臣奨励賞を受賞。

久保恵美子さん
九十四回書教展　公募の部
中国大使館賞を受賞。

星野由美さん
九十四回書教展　学生の部
毛筆部　審査委員長賞を受賞。

成澤麻璃生さん
読売書法展　入選
第十四回全日本高校大学生書道展
優秀賞を受賞。

躰道（個人）

山寺由記さん
第五回世界躰道選手権大会
女子展開競技優勝。

泊明日菜さん
第四十三回全国学生躰道優勝大会
女子個人法形競技三位。

テコンドー（個人）

富澤穣さん
第二十一回全日本学生テコンドー
選手権大会
個人男子マッソギ七十八キロ級
準優勝。

亀井祐子さん
第二十一回全日本学生テコンドー
選手権大会
個人女子マッソギ五十七キロ級
優勝。

和氣萌さん
第二十一回全日本学生テコンドー
選手権大会
個人女子マッソギ五十七キロ級
準優勝。

テコンドー（団体）

第二十一回全日本学生テコンドー
選手権大会
団体戦女子マッソギ準優勝
大学総合三位。

VOGEL RSC（スキー・団体）

第三十七回全国学生岩岳スキー大会
女子総合二位。

課外活動団体助成報告

劇団こんにちはシアター
「二〇〇九年秋公演」への学外発表会会場借用助成。

狂言研究会
「狂言研究会第三十回自演会」への学外発表会会場借用助成。

吹奏楽団
「第十六回定期演奏会」への学外発表会ポスター印刷助成。

書道部
「二松学舎大学書道部　書作展」への学外発表会会場借用助成。

合唱団コールエコーズ
「第四十三回定期演奏会」への学外発表会会場借用助成。

茶道部
「卒業記念茶会」への学外発表会会場借用助成。

ゼミ探訪

《伊藤ゼミナール》

私たちが所属している伊藤ゼミは、師である伊藤先生の指導のもと、日々『三国志』の研究に励んでいます。普段の授業では『三国志演義』を読みながら基本的な中国文学の読解について学び、徐々に卒論に向けた研究へと発展していきます。

授業や合宿で行われる発表は、学生主体のディスカッションによって進み、各発表の最後に先生からコメントを頂きます。卒論に向けた合宿では、発表の時間は授業以上に緊張した雰囲気が続きますが、その他の時間は先生も学生の中に溶け込んで、皆で楽しく過ごすことが出来るので、素晴らしい思い出作りになります。

担当の伊藤先生は、授業内容や卒論に関することだけでなく、進路やその他の相談などにも親身になって下さいます。普段は優しく親しみやすい先生ですが、時にはかの有名な魏王・曹操のように、厳しく指導をしていただけます。また、ゼミ生の中にも義兄弟の契りを結んだ劉備・関羽・張飛を始めとした様々な三国時代の武将たちが生息しており、伊藤ゼミは個性豊かなメンバーで構成されています。

伊藤ゼミはまだ生まれて日の浅いゼミナールですが、先生と学生の距離が非常に近く、三年生と四年生の仲もとても良いと思います。一種の大家族です。授業中の雰囲気と、飲み会等で団欒をしている時とのギャップが面白いのも特徴です。

『三国志』という共通の興味・関心を持って入っても、皆それぞれ人物であったり、場面であったりと研究したい内容が違います。それがゼミ生たちの個性であり、また、『三国志』の魅力だと思います。

中国文学科　中島　彩子

《河原田ゼミナール》

私たちが所属する河原田ゼミでは、現代アメリカ法について勉強しています。私たちのゼミの特徴は二つあります。一つ目はDVDを見て勉強することです。裁判員制度が導入された時には、日本の裁判員制度とアメリカの陪審員制度の違いをDVDで見て学びました。新しい話題はもちろんのこと、昔の事件や話などの映像も見て勉強します。DVDを見ながら授業をすることで、難しくて敬遠しがちなテーマも興味を持ち、楽しく学ぶことが出来ます。

DVDを見たあとは、みんなでその内容について議論をします。人数が少なく一人一人の発言の機会が多いので、みんな自分の意見や考え、疑問を積極的に言い合っています。この議論の時間では、自分では思いつかないような意見や考えが聞けるのでとても参考になります。

もう一つのゼミの特徴は、担当の河原田先生との距離が近いことです。先生からお茶に誘って下さることがよくあり、その時は勉強の話ではなく、映画の話や本の話など私たちに合わせて話をしてくれます。授業以外の時間に校内で先生と会った時も先生の方から話しかけて下さるので、先生との壁は低いです。

合宿は年に二回行います。合宿では、四年生が卒業論文の途中経過を発表し、その内容について三、四年生が質問をします。三年生にとっては一年後の卒業論文の参考となるとても貴重な時間です。勉強以外では買い物をしたり、先輩や先生と露天風呂に入ったりと親睦を深めます。

私たちは、アメリカ法の知識を身に付けるのはもちろんのこと、楽しんで学んでいきたいと考えています。

国際政治経済学科　冨澤　一樹
中田　隼人

父母会事業計画の一環として、毎年開催されている地区別父母懇談会の平成二十四年度までの開催予定と、本年度の日程・開催県が別表のように決定しましたのでお知らせいたします。開催日順から長野県・宮城県・岩手県・東京都（九段校舎）・千葉県（柏校舎）・大分県・高知県・山口県・広島県の九会場を予定しております。詳細については、決定しだいお知らせいたします。

大学への質問及びご意見・ご要望などを大学関係者と直接お話しいただける絶好の機会です。この機会を是非利用していただきたいと思います。この企画を父母にとって有意義なものとするためにも多くの参加を希望いたします。フリー参加形式としておりますが、全ての会員の皆様には改めて出欠確認のため開催案内をお送りいたします。ご不明な点がございましたら父母会事務局にご連絡下さい。

（電話　〇四―七一九一―八七五六）

地区別父母懇談会年次開催計画案

開催年度	平成22年度		平成23年度	平成24年度
開催予定県	長野県（長野市）	6月19日（土）	山形県	青森県
	宮城県（仙台市）	6月19日（土）	福島県	秋田県
	岩手県（盛岡市）	6月20日（日）	群馬県	栃木県
	東京都（九段校舎）	7月　3日（土）	東京都（九段校舎）	東京都（九段校舎）
	千葉県（柏校舎）	7月10日（土）	千葉県（柏校舎）	千葉県（柏校舎）
	大分県（大分市）	7月17日（土）	石川県	新潟県
	高知県（高知市）	7月17日（土）	山梨県	福岡県
	山口県（山口市）	7月24日（土）	静岡県	鹿児島県
	広島県（広島市）	7月25日（日）	大阪府	
			岡山県	
合計	9県		10県	8県

開催県は、都合により変更する場合があります。

定期総会

平成二十二年度　父母会定期総会開催について

左記の日程で、平成二十二年度二松学舎大学父母会定期総会を開催いたします。

当日は、講演会を予定しております。

日時・平成二十二年五月二十九日（土）
場所・九段校舎
内容・平成二十一年度事業報告並びに決算
　・平成二十二年度事業計画並びに予算

一年次生～三年次生の会員の皆様には、平成二十二年度定期総会のご案内と出欠票（委任状）を父母会報第六八号に同封しておりますのでご確認下さい。また、準備の都合上、ご出欠を同封の出欠票（委任状）で五月二十六日（水）までにお知らせいただきますようお願いいたします。

なお、定期総会資料につきましては、五月中旬に送らせていただきます。

編集後記

卒業生のご父母の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。

本号では、卒業式・卒業パーティーの様子を掲載致しました。厳粛な卒業式、それとは対照的に華やかな卒業パーティーをお伝えする事ができましたでしょうか。

また、平成二十二年度の定期総会・地区別懇談会等の日程も載っております。是非来年度の予定に入れていただき、より多くのご父母の方々にご参加いただければ幸いです。大学と連携した父母会の活発な活動が、学生の学業や将来の夢をサポートし、これから厳しい社会へと巣立っていく学生の支援につながると信じております。

父母会のホームページをご覧になられた事はありますか？父母会報ではお伝えしきれない学生の姿を見る事ができます。会則や年間スケジュールなどのほか、奨学金についてなど色々な情報が満載ですので、是非ご活用ください。また、ご覧になられましたご意見ご感想なども多数お寄せ下さい。

最後になりましたが、今年度も多くの皆様方のご協力をいただき活動できました事を心より感謝申し上げます。ありがとうございました。